

## 水棲半翅類

ここでは、いわゆる水棲半翅類と呼ばれる群のうち、ケシミズカメムシ科とカタビロアメンボ科を除いたものを扱う。

水棲半翅類はこれまで、県内での分布調査はあまりなされておらず、分布相が明らかになっている科は、ほとんどないと言っても過言ではない。したがって過去の資料からは、人為による影響がどの程度生じているかを把握することはもはや不可能に近いが、経験的に水棲半翅類の衰退は明らかで、何らかの判断を示すべきであると考えられる。このため、今回の調査においては過去の文献だけに頼ることなく、県内の良好と思われる水環境をできるだけ見て回り、現状を把握することを第一とした。

この結果として、県内から初めて発見されたり、予想外に普遍的な分布を示すことが判明した種類もある。もちろん、それは従来の水棲半翅類調査が不十分であったからである。しかしその一方で、予想どおり少なくとも3種類は絶滅し、またいくつかの種類については県内から姿を消しつつあるだろうこともわかってきた。その根本的な理由としては、好適な水環境が県内にはほとんど残されていないことによる。各種の地図・地形図には池沼が示されていても、調査に訪れると、埋め立てられてしまっていたり、残っていたとしても護岸されてしまい、水棲昆虫の生息環境としては不適なものほとんどであった。また、水棲の昆虫にとっては、かつての湿田から現在行われているような乾田へ、という稲作耕法の転換も大打撃であったと考えられる。筆者らは県内での湿田を1枚たりとも見いだすことができなかった！これでは水棲昆虫は、秋期から春期までの8-9カ月間も、田を生息場所とすることはできないのである。

先に述べたように、今回の調査では地形図やナチュラリストなどの情報を基に県下の水環境をくまなく回るという方針を取った。しかしその結果として、どうしても調査対象地点が多くなってしまい、このため相模川の河川敷や湘南地域などでは調査が不十分に終わってしまったところもある。不本意ではあるが、とりあえずこの調査で把握できたことと経験的な記憶とを基に、わかる範囲でレッドデータ度を判定した。また、レッドデータ種の解説は絶滅種と絶滅危惧種に限った。

なお、学名は平嶋監修(1989)に従った。また、県内から記録はあるが、その信憑性に疑問があると判断されたもの(高桑ほか, 1993)は調査の対象外とした。

### イトアメンボ科 Hydrometridae

県内からは2種の記録があるが、そのうちの1種は絶滅種と判断される。残る1種のヒメイトアメンボはやや局地的ではあるが、生息地での個体数は一般にきわめて多い。

#### ●イトアメンボ *Hydrometra albolineata* (Scotto)

[絶滅種C?]

[生息環境] 平地～丘陵地の抽水植物などが豊富に生育す

る池沼を好むものと考えられる。

[過去の分布] 文献上からは横浜・三浦半島・県央・湘南地区から記録がある(丸山・高桑, 1992)。しかし、ヒメイトアメンボを本種と見誤ったものも含まれている可能性が高い。県内産の標本を検したことがないが、かつては県内の低地部に広く分布していたものと思われる。

[調査結果] 調査期間中に知ることができた生息地はない。菊田(1985)により記録された標本の追跡調査は行っていない。

### アメンボ科 Gerridae

県内からは7種が知られていたが、今回の調査でさらに3種が追加でき、合計10種となった。これで県内に生息の可能性があるアメンボ類の全種が出そろったことになる。神奈川県新記録の次の3種はいずれも生息地が限られており、絶滅危惧種と判断される。また、オオアメンボは丹沢山地の山麓部でかなり確認できた以外は、わずかに三浦半島の森戸川上流で発見できたに過ぎなかった。一方、最近になって県内から記録されたヤスマツアメンボは各地で確認できた。

#### ○エサキアメンボ *Gerris (Limnoporus) esakii* Miyamoto

[絶滅危惧種F?]

[生息環境] 平地～丘陵地のヨシなど抽水植物が密生する池沼に生息する。ヨシ群落の内部や、岸辺の抽水植物の陰、あるいは樹冠をヤナギ類などで被われた水際や水溜りのように、かなり暗い環境を好み、開放水面上にはほとんど出ようとしない。厚木市の2ヶ所においては、次種のほかヤスマツアメンボ、ヒメアメンボなどと同所的に見いだされた。

[過去の分布] 県内からは未記録であった。ただ、文献上からは厚木市七沢における記録があるが、それが誤同定であろうことは高桑ほか(1993)が看破している。生息環境から考えれば、また次種などとの競合がそれほどきびしくないことも併せ考えれば、かつては県内の低地部には広く分布していたと考えた方が妥当である。

[調査結果] 調査期間中に知ることができた生息地は次のとおり。いずれの場所においても個体数は少なくないが、厚木市における2産地はいずれも開発可能な立地にあり、絶滅が危惧される。

三浦市小松が池：10頭, 9.X.1993, 高桑・苅部採集；厚木市棚沢：6頭, 3.XI.1993, 高桑・苅部採集；厚木市中荻野：4頭, 12.X.1993, 高桑採集；9頭, 3.XI.1993, 高桑・苅部採集。

#### ○ババアメンボ *Gerris (Gerris) babai* Miyamoto

[絶滅危惧種F?]

[生息環境] 平地～丘陵地のヨシなど抽水植物が密生する池沼に生息する。また、上を植物で被われた水際やヨシ群落の内部にいて、開放水面上にはほとんど出てこない。厚木市の2ヶ所においては、前種のほかヤスマツアメンボ、ヒメアメンボなどと同所的に見いだされた。

[過去の分布] 県内からは未記録であった。生息環境から

神奈川県産水棲半翅類のレッドデータ度一覧

| 科・種名     | RD度   | 衰退原因        | 備 考                  |
|----------|-------|-------------|----------------------|
| イトアメンボ科  |       |             |                      |
| イトアメンボ   | 絶滅C？  | 水環境の喪失      | 近年の確実な記録なし           |
| ヒメイトアメンボ | 減少H   | 〃           | 場所によっては多産            |
| アメンボ科    |       |             |                      |
| エサキアメンボ  | 危惧F？  | 水環境の喪失・悪化？  | 県未記録種、三浦市と厚木市で確認     |
| アメンボ     | 健在L   |             | 止水域、緩やかな流れに普通        |
| オオアメンボ   | 減少H   | 水質悪化；水環境の喪失 | 丹沢山地周辺と葉山町のみで確認      |
| コセアカアメンボ | 健在K   |             | 流水域に普通               |
| ヤスマツアメンボ | 健在？K  |             | 各地の閉鎖的な空間の水域に稀でない    |
| ババアメンボ   | 危惧F？  | 水環境の喪失・悪化？  | 県未記録種、逗子市、藤沢市、厚木市で確認 |
| ヒメアメンボ   | 健在L   |             | 止水域にごく普通             |
| ハネナシアメンボ | 危惧F？  | 水環境の喪失・悪化？  | 県未記録種、逗子市で確認         |
| シマアメンボ   | 健在L   |             | 流水域にごく普通             |
| ウミアメンボ   | ？     |             | 相模湾で記録あるが今回は未調査      |
| コオイムシ科   |       |             |                      |
| コオイムシ    | 危惧F   | 水環境の喪失・悪化   | 葉山町で確認               |
| オオコオイムシ  | 健在K   |             | 各地の止水域で確認、近年に増加傾向？   |
| タガメ      | 絶滅C   | 水環境の喪失・悪化   | 1980年代以降の確認例なし       |
| タイコウチ科   |       |             |                      |
| タイコウチ    | 健在K   |             | 各地の止水域で確認も個体数は少ない    |
| ミズカマキリ   | 健在L   |             | 各地の止水域で確認            |
| ヒメミズカマキリ | 危惧E？  | 水環境の悪化？     | 確実なものは県未記録、相模川で確認例   |
| ミズムシ科    |       |             |                      |
| ミヤケミズムシ  | 危惧F？  | 水環境の悪化？     | 確実なものは県未記録、逗子市で確認    |
| ミズムシ     | 絶滅C？  | 〃           | 今回調査で未確認、過去の文献の要確認   |
| コミズムシ    | 減少？H？ | 〃           | 同定困難につき調査不十分         |
| ヒメコミズムシ  | 減少？H？ | 〃           | 〃                    |
| エサキコミズムシ | 減少？H？ | 〃           | 〃                    |
| チビミズムシ   | ？     |             | 〃                    |
| ナベブタムシ科  |       |             |                      |
| ナベブタムシ   | 健在？J？ |             | 丹沢山麓で確認も調査不十分        |
| マツモムシ科   |       |             |                      |
| マツモムシ    | 健在L   |             | 県内各地で確認もやや局地的        |
| コマツモムシ   | 危惧F   | 水環境の悪化？     | かつての普通種；県央で確認できたのみ   |

考えれば、また前種などとの競合がそれほどきびしくないことも併せ考えれば、かつては県内の低地部には広く分布していたと考えた方が妥当である。

[調査結果] 調査期間中に知ることができた生息地は次のとおり。厚木市における2産地はいずれも個体数は少ないが、開発可能な立地にあり、絶滅が危惧される。なお下記のほか、逗子市池子にも生息しているという確実な情報がある。

藤沢市大庭裏門公園：1♂幼生，10.VII.1994，岸一弘採集；厚木市棚沢：10頭，3.XI.1993，高桑・荻部採集；厚木市中荻野：10頭，3.XI.1993，高桑・荻部採集。

○ハネナシアメンボ *Gerris* (*Gerris*) *amembo* Miyamoto  
【絶滅危惧種F？】

[生息環境] 平地～丘陵地のヒシなど浮葉植物が密生する池沼に好んで生息するようである。人が近づくと水際か

ら遠く離れてしまう習性があり、採集はしばしばかなり困難である。

[過去の分布] 県内からは未記録であった。生息環境から考えれば、県内の低地部には広く分布していたと考えた方が妥当である。

[調査結果] 調査期間中に、逗子市池子に生息しているという確実な情報を得た。ヒシ群落の残っている池は調査の必要性がある。

コオイムシ科 *Belostomatidae*

県内からは3種が知られるが、そのうちの1種が絶滅種、もう1種が絶滅危惧種と判断される。残る1種のオオコオイムシは県内での確認例が最近になって増えている。

○コオイムシ *Diplonychus japonicus* Vuillefroy  
【絶滅危惧種F】

〔生息環境〕一般に、平地～丘陵地の抽水植物などが豊富に生育する池沼を好む。河原に生じた湧水源のゆるやかな流れからの発見例（平子，1985）もある。同属のオオコオイムシと異なり、湿地など水深のごく浅い水域ではほとんど発見されない。

〔過去の分布〕文献上からは横浜・三浦半島・県央・津久井地区の記録しか見あたらなかった（荻部・高桑，1994）が、実際には県内の低地部に広く分布していたものと思われる。

〔調査結果〕調査期間中に知ることができた確実な生息地は、葉山町峯山の太池（荻部・高桑，1994）と下記の津久井地方のみ。峯山の太池での個体数は少なくないが、1993年夏には池が干上がるなど環境の悪化が見られ、絶滅が危惧される。また津久井の記録地では1個体しか発見できなかった。過去の記録の中には、オオコオイムシと本種とを見誤ったものも多いと考えられる。

津久井郡藤野町綱子大羽根橋下の水溜り：1♂，8.X.1994，荻部採集。

●タガメ *Lethocerus deyrollei* (Vuillefroy) 【絶滅種C】  
〔生息環境〕一般に、平地～丘陵地の抽水植物などが豊富に生育する池沼を好む。かつては、田などにも普通に見られたという（田亀という和名の起こり）。

〔過去の分布〕文献上からは横浜・県央地区（丸山・高桑，1992），それに三浦半島（浜口，1967）の記録しか見あたなかった（下記註のおくやま，1991を除く）が、逗子市や大磯町産の標本を検しているほか、聞き取りから判断して、実際には県内の低地部に広く分布していたものと思われる。

註. おくやま（1991）には、著者自身が1990年3月に‘丹沢の近く’のタナゴの群生する沼でタガメを採集したと記されており、その沼の写真も掲載されている。‘丹沢の近く’という表現からは、常識的にはこの沼が神奈川県内に位置する可能性がもっとも強く、筆者らは思い当たる場所数カ所を訪れるとともに、県内のナチュラリストたちに沼の掲載写真を示したりして情報を求めたが、ついに所在を明らかにすることはできなかった。また、著者に照会の手紙を出したが、返答をもらえるに至っていない。このため残念ながら、おくやまに示された沼が神奈川県に属するかどうか不明である。

〔調査結果〕調査期間中に知ることができた生息地はない。筆者らの知る限りでは、久保（1993）による1977年の横浜市栄区での確認例が最新のものである。

#### タイコウチ科 Nepidae

県内からは確実なものとして3種が知られるが、そのうちヒメミズカマキリが絶滅危惧種、タイコウチが減少種、残るミズカマキリが健全種と判断される。

○ヒメミズカマキリ *Ranatra unicolor* Scott

【絶滅危惧種？F？】

〔生息環境〕一般に、平地～丘陵地の沈水植物などが豊富に生育する池沼を好む。〔過去の分布〕文献上からは確実な記録を探し出すことができなかったが、高桑ほか（1993）が書き留めているように、相模川で採集したという信頼できる情報がある。かつては、県内の低地部に広

く分布していたものと思われる。

〔調査結果〕採集されたという相模川の河跡湖はすでに埋め立てられてしまっていた。調査期間中に知ることができた確実な生息地はないが、相模川などの河川敷に現在も生息している可能性がないわけではないので、ここではその期待も込めて絶滅危惧種として扱った。

#### ミズムシ科 Corixidae

同定の著しく困難な群を含むとともに、分布調査もきわめて不十分な分類群である。文献上の記録としては、丸山・高桑（1992）は県内から5種類を挙げたほか、高桑ほか（1993）はさらに1種を追加したので、県産としてはつごう6種が知られていることになる。ただし、これらの文献記録の中には同定に疑問なものも含まれており、また実際にはもっと多くの種類が県内から発見されることがだろう。

レッドデータ度の判断は難しいので、ここでの解説は大形種のものに限った。日本産本科の最大クラスであるミズムシが絶滅種、それよりやや小形のミヤケミズムシが絶滅危惧種と判断される。

○ミヤケミズムシ *Xenocorixa vittipennis* (horvath)

【絶滅危惧種F？】

〔生息環境〕平地～丘陵地のヨシなど抽水植物が豊富で、水の澄んだ貧栄養の池沼に好んで生息するようである。〔過去の分布〕県内からは斎藤ほか（1987）による厚木市七沢の記録があるが、高桑ほか（1993）が指摘しているように、信用できる記録ではない。ただし、生息環境から判断すれば、当地に生息していた可能性は充分にある。もともと県内の低地部には、局地的ながら広く分布していたと考えた方が妥当である。

〔調査結果〕厚木市七沢では確認することはできなかった。しかし調査期間中に、逗子市池子に生息しているという確実な情報を得た。

●ミズムシ *Hesperocorixa distanti* Kirkaldy 【絶滅種C？】

〔生息環境〕平地～丘陵地の水草の豊富な池沼に生息するようである。

〔過去の分布〕県内からは横浜や県央などから記録がある。もともと県内の低地部には広く分布していたのであろう。

〔調査結果〕調査期間中に知ることができた生息地はない。発見の比較的容易な種であるにもかかわらず、まったく確認できなかったことから、すでに絶滅してしまっているものと思われる。

#### マツモムシ科 Notonectidae

県内には2種が分布する。そのうちコマツモムシを絶滅危惧種、マツモムシを健全種としておいたが、後者にあっても減少は著しいものがある。コマツモムシが絶滅危惧種に該当することなど、他の都道府県のナチュラリストには信じてもらえないかもしれない。

○コマツモムシ *Anisops ogasawarensis* Matsumura

【絶滅危惧種F？】

〔生息環境〕一般に、平地～丘陵地の沈水植物などが豊富に生育する池沼を好む。

〔過去の分布〕県内からの記録は横浜や三浦半島，県央にあるにすぎない（丸山・高桑，1992）が，もともと県内の低地部には広くふつうに分布していたものと思われる。

〔調査結果〕調査期間中に知ることができた生息地は次のとおりである。本種のように小形種で，いわゆる普通種が限られた場所でしか発見できなかったのは，驚きですらある。

厚木市七沢：高桑ほか（1993）；愛川町角田：5頭，6.X.1994，苅部採集。

#### 引用文献

浜口哲一，1967. 三浦半島の動物，昆虫類. かながわの自然，(4): 7-8.

苅部治紀・高桑正敏，1994. 神奈川県を主としたコオイムシ属2種について. 神奈川自然誌資料，(15): 11-14.

久保浩一，1986. 円海山近郊の自然と史跡，p.19.

丸山清・高桑正敏，1992. 神奈川県産異翅半翅類目録. 神奈川虫報，(100): 9-40.

おくやまひさし，1991. フィールド観察ノート タガメ.. Field & Stream, 5 (5): 130-133.

斎藤知一・飯村優子・中田勝，1987. 自然保護センターの野外施設における水生昆虫について. 神奈川県立自然保護センター調査研究報告，(4): 79-84.

高桑正敏・高橋和弘・岸一弘・槐真史，1993. 神奈川県立自然保護センターの水棲昆虫について. 神奈川県立自然保護センター報告，(10): 37-55.

(高桑正敏・苅部治紀)